

機関番号：32639

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19330181

研究課題名（和文） 学校評価システムの展開に関する実証的研究

研究課題名（英文） Positive Study on the Development of School Review

研究代表者

福本 みちよ (FUKUMOTO MICHIO)

玉川大学・通信教育部教育学部・准教授

研究者番号：40387410

研究成果の概要（和文）：

本研究の主眼は、自己評価・学校関係者評価・第三者評価という三つの評価による効果を、教育の質の保証という観点から検証していくことにある。本研究では、日本の特徴的な自治体における学校評価システムの展開過程と、イングランド、ニュージーランド、アメリカ、ドイツなどの諸外国における学校評価システムの展開過程を分析し、各地域や国における学校評価システムが有効に機能するため促進要因と阻害要因を検討した。その中で、特に学校評価システムの運用における「支援機能」に着目しつつ研究を進めた。

研究成果の概要（英文）：

Focus of this study will validate the effect of three school review type - self review, external review and third party review- for the guarantee of the quality of education. This research analyzes the development process of school review system in some distinctive advanced local government in Japan, and in foreign countries such as England, New Zealand, USA, and Germany considering promoting and inhibiting factors for school review system. While among them, we particularly focused on the "school support" in advanced research.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
2008年度	3,300,000	990,000	4,290,000
2009年度	3,300,000	990,000	4,290,000
2010年度	2,000,000	600,000	2,600,000
年度			
総計	12,100,000	3,630,000	15,730,000

研究分野：教育学

科研費の分科・細目：教育学

キーワード：学校評価 教育の質の保証 学校支援システム 第三者評価 比較研究

## 1. 研究開始当初の背景

日本においては、これまで学校現場でも学校評価研究の領域においても、「学校評価」を「学校による自己評価」としてのみとらえる感が強く、理論的にも実証的にも外部による学校評価についての検討はほとんどなされてこなかった。そうした状況でありながら、

一方で学校評議員制度の導入に連動する形で、学校に対する外部評価（学校評議員や保護者等の学校関係者による評価）をシステム化しようとする動きがみられる。さらには、「骨太方針2005」（平成17年7月）で学校外部評価問題が政策課題に位置づけられ、中央

教育審議会答申（同年 10 月）を経て、平成 18 年 3 月の文部科学省『義務教育諸学校における学校評価ガイドライン』以降は、学校関係者以外による評価、いわゆる第三者評価のシステム化に向けた研究開発の動きが急速に進められている。つまり、今学校は、自己評価・外部評価・第三者評価という三つ巴の評価システムの実施による教育の質の保証が突きつけられているのである。

しかしながら、現状では外部評価にせよ、第三者評価にせよ、システム導入だけが先行し、評価指標の開発や評価者の養成といった評価システムの構成要素がほとんど手探りのまま確立されていない上に、いかに評価結果を受け止め学校改善に活かしていくのかという学校経営内部システムやそれをサポートする支援システムが整備されていない状況にある。

本研究が果たすべき課題は、①自己評価・外部評価・第三者評価という三つの評価をいかに機能的に連動させるか、②それらの評価機能を通じていかに学校経営システムを確立させるか、そしてさらに③これらの学校改善システムを連動させることによる効果を検証し、義務教育の質保証を牽引しうる公教育システムの課題を解明する、という三点である。

## 2. 研究の目的

本研究の主眼は、自己評価・外部評価・第三者評価という三つの評価による効果を、教育の質の保証という観点から検証していくことにある。そのためには、①この三つの評価がどのように連動するのか、②各評価から出された評価結果をどのように学校改善に結びつけていくのか、③この三つの評価が連動した評価システムを効果的に機能させるために必要な条件整備とはどのようなものか、といった日本の各学校や教育委員会が抱える現実的課題に、理論的実証的に取り組んでいく必要がある。

これまでの研究成果により、伝統的な視学制度の歴史をもちつつ競争的要素も包含した形で外部評価を行っているイギリスや、制度的にはイギリスとの類似点を多くもちながらも自律的学校経営の素地を全くもたないなかで学校分権と外部機関による第三者評価を同時に導入したニュージーランド、さらには両国とは異なる視点で学校評価を導入しつつあるドイツやフランスといった各国における自己評価と外部評価、第三者評価の実施実態、並びに評価の実施にともない必要とされる諸施策（学校改善支援システムの構築、評価者養成等）の特質や構造、機能については明らかにしてきた。これらの研究成果をもとに、これまで明らかにしてきた評価

システムがいかなる構造の元で教育の質の保証を果たしているのか、すなわち評価システムの導入による効果とその効果を最適化していくためのサポートシステムを教育の質の保証という観点から分析し、日本の公教育システムを再構築するための課題を析出することを、本研究の目的としている。

## 3. 研究の方法

本研究では調査対象国ごとに、その国の教育研究に精通している研究者 1 名ないし 2 名により研究組織を構成する。

最初に、自己評価と外部評価の連携及び評価と支援の観点から、これまでの研究を総括し、学校改善のためのシステムを類型化する。それをもとに、システムモデルの仮説を組み立てる。これを視点にして、日本（木岡）、ニュージーランド（福本・加藤）、イギリス（雲尾）、フランス（藤井）、ドイツ（榊原・南部）、アメリカ（湯藤）の学校評価システムの展開過程と実施状況、及びその効果について現地調査を行う。その際、ニュージーランドや品川区など第三者評価を実施している国や地方においては、学校訪問調査に同行するなどして実際の第三者評価過程と学校の評価結果受容過程について観察・インタビューする。

加えて、数回に分けての訪問調査を通して、自己評価－外部評価－第三者評価－学校改善過程を追跡調査する。こうしたパイロット・リサーチをもとに、対象となる学校や学区など研究フィールドを確定させ、各フィールドに応じた調査視点と共通の分析枠組みを構築する。

## 4. 研究成果

本研究では、日本や諸外国における学校評価システムの展開過程を、学校評価システムが有効に機能するための促進要件と阻害要件の析出の観点から分析した。その結果、日本の特徴的な自治体における学校評価システムの展開過程として、それらの一つの到達状況を福岡県の事例に見ることができた。さらに、学校評価システムが今後克服すべき課題に対して積極的に取り組んでいる事例として、横浜市（自己評価：計画と評価の一体化の推進）、長崎県西海市（学校関係者評価：協同的な学校評価づくり）、品川区（第三者評価：専門的評価を組み込んだシステム設計）の事例から、学校がなすべき自助努力や外部との連携・協力と、教育委員会によるシステムづくりや講じるべき支援方策について、有効な促進要件をつかむことができた。

さらに、イングランド、ニュージーランド、アメリカ、ドイツなどの諸外国における学校評価システムの展開過程については、特に学

校評価システムの運用における「支援機能」に着目しつつ研究を進めた。各国の学校評価システムの展開過程にみられた促進要因と阻害要因を析出する中で、イギリス・ニュージーランドについては両国の学校評価システムの分析枠組みを整理・精緻化し、クロス表を作成した。そこから、自己評価をベースとした学校評価システムの構築と学校支援システムの連動強化という共通の指向性が見られたことは、今後の日本における学校評価システムと学校支援の連動の在り方に大きな示唆となる。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計3件)

- (1) 加藤崇英・木岡一明・高妻紳二郎・福本みちよ・高橋望「学校評価システムの展開過程に関する研究Ⅱ－事例を通してみる学校評価が有効に機能するための要件の検討－」(日本教育制度学会第18回大会課題別セッションⅣ/2010年11月14日/於:山梨県立大学)
- (2) 加藤崇英・高妻紳二郎・福本みちよ「学校評価システムの展開過程に関する研究－日本・英国・NZでの学校評価システムの運用における支援とその特質に着目して－」(日本教育制度学会第17回大会課題別セッションⅡ/2009年11月15日/於:常葉学園大学)
- (3) 福本みちよ「教育省－第三者評価機関－学校支援機関」のネットワークによる学校改善支援プロセスに関する研究－ニュージーランド・オークランド市の学校を事例として」(日本教育行政学会第42回大会自由研究発表/2007年10月14日/於:神戸大学)

[図書] (計4件)

- (1) 研究代表福本みちよ『学校評価システムの展開に関する実証的研究』最終報告書(科学研究費補助金基盤研究(B))、2011年3月、232頁
- (2) 研究代表福本みちよ『学校評価システムの展開に関する実証的研究』中間報告書(3)(科学研究費補助金基盤研究(B))、2010年3月、120頁
- (3) 研究代表福本みちよ『学校評価システムの展開に関する実証的研究』中間報告書(2)(科学研究費補助金基盤研究(B))、2009年3月、160頁
- (4) 研究代表福本みちよ『学校評価システム

の展開に関する実証的研究』中間報告書(1)(科学研究費補助金基盤研究(B))、2008年3月、158頁

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

福本 みちよ(FUKUMOTO MICHIO)  
玉川大学・通信教育部教育学部・准教授  
研究者番号:40387410

##### (2) 研究分担者

高妻 紳二郎(KOUZUMA SHINJIRO)  
福岡大学・人文学部・教授  
研究者番号:20205339

加藤 崇英(KATO TAKAHIDE)  
茨城大学・教育学部・准教授  
研究者番号:30344782  
(H20:連携研究者)

木岡 一明(KIOKA KAZUAKI)  
名城大学大学院・大学・学校づくり研究科・教授  
研究者番号:10186182  
(H19→20:連携研究者)

藤井 佐知子(FUJII SACHIKO)  
宇都宮大学・教育学部・教授  
研究者番号:50186722  
(H19→20:連携研究者)

南部 初世(NANBU HATSUYO)  
名古屋大学大学院・教育発達科学研究科・准教授  
研究者番号:40263058  
(H19→20:連携研究者)

湯藤 定宗(YUTO SADAMUNE)  
帝塚山学院大学・リベラルアーツ学部・准教授  
研究者番号:20325137  
(H19→20:連携研究者)

榊原 禎宏(SAKAKIBARA YOSHIHIRO)  
京都教育大学・教育学部・教授  
研究者番号:90215616  
(H19→20:連携研究者)

雲尾 周(KUMOO SHU)  
新潟大学大学院・現代社会文化研究科・准教授  
研究者番号:30282974  
(H19→20:連携研究者)

浅野 良一 (ASANO RYOICHI)  
兵庫教育大学大学院・学校教育研究科・教授  
研究者番号：10452509  
(H19→20：連携研究者)

(3) 連携研究者

滝沢 潤 (TAKIZAWA JUN)  
大阪市立大学大学院・文学研究科・准教授  
研究者番号：20314718

福本 昌之 (FUKUMOTO MASAYUKI)  
岡山県立大学・情報工学部・教授  
研究者番号：60208981

(4) 研究協力者

高橋 望 (TAKAHASHI NOZOMU)  
日本学術振興会特別研究員